

2023 年 6 月 19 日

学校法人三幸学園
仙台ビューティーアート専門学校
校長 佐藤 亨 殿

学校関係者評価委員会
委員長 村松 千秋

学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 村松 千秋（飛鳥未来高等学校仙台キャンパス 教頭）
- ② 宮下 有裕（株式会社共立メンテナンス 東北支店支店長）
- ③ 遠藤 健 （株式会社ファッションスタジオ モデルエージェンシー 代表取締役）
- ④ 遠藤 由希（第 2 期卒業生）
- ⑤ 仙波 康之（第 5 期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023 年 6 月 19 日（会場 仙台ビューティーアート専門学校 503 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 仙台ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 蒲生康子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 村松千秋

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

2022 年度は「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え行動することで社会に貢献する人材育成」を教務の基本軸として考え生徒指導を行う。

さらに現場力を高めるべく各企業様やサロンオーナー様と連携し現場に直結した授業を行う。

【教務ゴールイメージ】

- ・素直な心：返事が出来る、意見を受け入れ、吸収できる
- ・感謝の気持ち：感謝を言葉や態度で表せる、ありがとうと言える
- ・高い意欲：まずやってみようチャレンジできる、目標をもち目標に向かって努力する向上心がある

○学習環境：コロナウイルス感染拡大予防により、メディア教育（オンデマンド・同時双方向）を取り入れた授業の継続が必要である。

- ・座学の科目の一部を1日にまとめ、授業5日のうち、1日をオンデマンド日として設定した。
- ・オンデマンド対象科目も月に1回は対面授業とし、進捗状況の確認、テストなどを行うようにした。
- ・座学の科目は、対面授業よりもメディア授業のほうが効率よく、かつ高い学習効果を発揮できる場面もあるが、不慣れで拙いメディア授業により学習効果が下がる例があるため、高い効果を発揮している教員の授業や動画を共有しクオリティの確保を行った。

○IT スキル：メディアを使った授業に伴い、学校と生徒の連絡手段も多様化した。

学校からの情報発信だけではなく、生徒から学校への書類提出手段がWEB化した。採用面接についてもWEBを使った試験が多くなり、画面を通して自己プレゼンテーションを行うトーク力や表現力が必要になった。

○現場力を高める授業では、引き続き株式会社友美様(美容実践授業)、ガモウ株式会社様(教材納入、コンテストや講演会など美容業界の情報提供)、小林豊子きもの学院様(着付け授業)、株式会社 Koa 様(サロンワーク)、株式会社 Lico 様(美容実践・サロンワーク)など企業様との連携を継続している。

②学校関係者評価委員会コメント

- ・入社当初は希望にあふれていて向上心があるが、半年ぐらいすると、先輩のモチベーションと自分のモチベーションのギャップを感じて辞める人が多く、ここ3～4年の退職理由で多いです。(仙波委員)
- ・1年ぐらい美容師として働き、違うと感じると美容師自体を辞めてしまう。最近の学生は美容師に対して熱い気持ちで美容学校を選んでいないのではないかと。熱い気持ちが昔の熱いとは違うが、残る方は志が高いと思います。(仙波委員)
- ・演者さんのヘアメイクなどで知識やスキル UP をしているので、現場では ICT が進んでいる現状はない。仕事をしながら先輩から教えてもらうので、自分から聞けるようになってほしい。学校と現場で求められる厳しさにギャップがありもどかしさがある。ヘアメイクは自宅でも練習できるので、もっと練習してほしいです。(遠藤委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・目指す業界では「自ら考え行動し、答えのない課題に答えを出していく力」が求められている。学校現場では業界に求められる力を教職員が理解し、授業や就職指導において統一した指導が必要である。また、離職率の改善も求められることからサロン様との情報交換も重要である。
- ・教員側が業界の動向を把握・理解することが必要であり、現場がどのような人材を求めているのか把握する事、またその情報を授業と就職指導に活かす事が重要である。

② 今後の改善方策

- ・自主自立の促しを行う。教職員がすぐに答えを言うのではなく、自分の意見を求める。出ない場合はヒントを出し、答えを導き出す。
- ・コロナウイルス感染予防の観点から声を出すことに制限があった世代に対し、自分の意見を述べる機会を増やす。
- ・メディアを活用した授業、就職活動に伴い IT スキルを教員が習得する。
- ・就職先となる各サロン様へのヒアリングや学校関係者評価委員会などでいただいた意見を反映させ、より現場で活躍できる人材育成をしていく。
- ・卒業後もサロン訪問するなど、卒業生の状況やサロン様との連携を深める。

③ 特記事項

- ・保護者様へ学校理解をしていただくため、オンラインでの入学前説明会を開催した。
- ・対面及びオンラインによる業界説明会、企業説明会の実施を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現場では、技術は経験で必ず身につけてくると考えています。やる気が大事。学校で教える事と現場で教える事が違うので、ある程度ギャップはあることは伝えてほしい。自分がイメージした物と実際の仕事の違いがあり辞める人が多い。美容師として次のステップへ行く前に辞めてしまうので、ギャップを超えてほしいと思っています。（遠藤委員）
- ・言葉の一つ一つに気をつけて話をしている。昔は怒られて当たり前で、周りの空気も暗くなっていた。今は怒られると落ち込む場合も考え、傷つけないように優しく伝える。笑いを交えながら伝えたり、新人の方のなりたい未来像を聞くようにしています。（遠藤委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・事務処理、会議運営、授業内容、ICT の導入などをより高いレベルで求められている。
- ・学校運営面ではコンプライアンス遵守の理解と実践、また生徒指導においてはハラスメント防止や生徒の多様化の理解が求められる。
- ・学外実習における企業様との連携が必要である。

② 今後の改善方策

- ・業務のシステム化・マニュアル化・情報システム化による業務効率化を進める。
- ・授業運営力の向上を図るための研修を導入する。

③ 特記事項

- ・Teams による全教員との情報共有。Google クラスルームでの課題提出を行った。
- ・年2回の教職員参加の全体会議の実施による、運営方針の浸透や情報共有が出来ている。

- ・ハラスメント規定の注意喚起を定期的実施している。
- ・中期経営計画の取り組みとして、仙台地区全体で「広報」「人材育成」「出口（産学連携・実習）」「組織基盤」のアクションプランに組み込み、適切な学校運営に向けて取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ハラスメントについてのマニュアルなどはないが、今の方たちへは言い方一つにも気をつけて接している。（遠藤委員）
- ・コンプライアンスについて、現場のヘアメイクさんは今後の仕事に関わる為、対応には気をつけてプロとしての仕事をしてもらっています。（遠藤委員）
- ・人間関係というより、美容師が好きかわからない、向いているかわからないという理由の退職が多いです。（仙波委員）
- ・職員室が安心の場である事をまず生徒に提供し、話しかけやすい、教職員がこもらないようにする職員室が退学防止には絶対条件。教職員が忙しいと、その姿を見て生徒は話しかけられないと感ずます。（村松委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・資格取得に向けてのカリキュラム、授業は必要だが、授業内容がワンパターンになってしまっている。生徒の要望や時代の流れを取り入れた内容にすることが必要である。
- ・教員の指導力向上のため、定期的な勉強会が必要である。

② 今後の改善方策

- ・授業アンケートや卒業アンケートの結果に対し、重点項目に絞り、新年度の改善項目を明確にし、よりよい教育が提供できるように取り組む。
- ・教員同士の授業見学を行い、他教員より評価・助言を頂き、授業改善を行う。
- ・教員の技術テストを継続して行う。

③ 特記事項

- ・美容科教員について、年に1回の技術テストを行っている。
- ・大手サロン様を招き、デモンストレーションを見る機会を設け、生徒のモチベーション向上につながるよう工夫した。
- ・コロナ感染予防をしながら学外実習を行い、生徒自身が将来の自分を考え、職業をより深く知る事ができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・入学してきた生徒へ美容を楽しいと思う授業をすることでモチベーションが上がると感じる。例えばモデルを呼んで実践し、「ありがとう」と言われ喜んでもらえる楽しいスイッチが入る事が多いと思います。（仙波委員）
- ・困難な事を乗り越える為に、目標を持たせる。実際に自分からたくさん質問をしてコミュニケーションを取り、課題や目標を持たせる事でモチベーションをあげるよう、機会を設けて次に繋がれるようにしています。（遠藤委員）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・目標喪失をさせないための授業工夫が必要である。
- ・退学率の低減。
- ・生徒が希望する業種への内定サポートが必要である。

② 今後の改善方策

- ・退学率低減のための対策として、生徒の生活面や心理面でのサポートが必要であり、面談やアンケートから生徒の変化を見逃さないようにする。
- ・就職後も活躍するため、就職指導にて生徒の希望をヒアリングすると共に、サロン様の情報を教員も理解する。

③ 特記事項

- ・卒業生 Link・卒業生 LINE を通じて卒業生へ学校情報や求人情報を発信し、学校と卒業生のつながりを深めている。
- ・就職率美容科100%、ヘアメイク科100%、トータルビューティー科98%

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・就職面接の際に見ているポイントは、明るく挨拶ができるかなど、第一声を見ている。また、きちんと目を見て話せるか、伝える意思があるかという点も大事。志望動機については、目標としているものをしっかり持ち、伝えてくれているかなど基本的な事を見ている。(遠藤委員)
- ・全体的な雰囲気を見ている。人それぞれなので、目を見て話せるかなど基本的な事が大切。雑談して、入社した時を想定して面接している。秘めている事を引き出す質問をし、ある程度本音で話せるか、仕事を理解してできるかを確認しています。(宮下委員)
- ・内向的でも自分の考えを持っている人はいます。素直さをもっている人は吸収力が違うので、今は人手不足なこともあり、どこでも「やってみて」が増えてきています。(宮下委員)
- ・就職を考え自分が作成した作品集や美に関係する内容などをSNSで発信するの仕方を、生徒には授業で伝えています。(佐藤さん)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・生徒が相談できる体制を整える必要がある。
- ・保護者への連絡は行えているが、単位不良など生徒自身への連絡についてタイムリーに出来ていない時があった。
- ・高校既卒・社会人特待生入学という入試方法はあるが、打ち出しが弱く現在の入学者は少ない。

② 今後の改善方策

- ・チーム担任制からクラス担任制へ戻し、クラスの窓口や管理を明確にする。
- ・生徒自身が相談しやすい環境、勉強しやすい環境にする為に表情や態度・体調の変化に気が付けるように教員間の連携を図る。

③ 特記事項

- ・心理カウンセラーを設置する等、生徒が相談できる体制は整っている。
- ・入学前の不安を解消するために入学前アンケートを行っており、必要に応じて連絡をしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現場として社員が辞めない為に、以前は月1回会議を行っていたが、現在は週1回の面談、ミーティングを一人一人対応している。意見、考えのすれ違いが多く、こちらが当たり前と思っている事が今は少し違う。意見のすれ違いでモチベーションが下がるので注意や怒ったりせず、伝え続ける事が大事だと思います。(仙波委員)
- ・就職活動では、雰囲気、基本的な挨拶などの他、継続できる力があり実際に何か成し遂げた事などのエピソードがあると良いと思います。出欠席などについては例えば1年次に休みがちでも、2年次にスイッチが入る人もいます。明確な理由があれば気にならないです。(仙波委員)
- ・保護者様との面談は対面でも Web でも可能としている。教員が苦手という保護者様も増えていると感じます。(村松委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・コロナ禍での海外研修が難しく、実施なしとなった。
- ・常に質の高い教育環境、授業内容が求められる。

② 今後の改善方策

- ・オンデマンド授業に対応する為、教員が知識を深め、生徒の理解度を上げられることが出来る授業を考えていく。
- ・生徒の満足度を考えて校内外実習内容を検討する。

③ 特記事項

- ・Wi-Fi 環境を整える為、生徒個人の ID、パスワードを設置している。
- ・教育ツールとして Google アプリを使用。
- ・コロナ対策も兼ね、週1回のオンデマンド授業の継続。
- ・校内設備の保守管理は定期的に行われており、安全且つ適切に管理できている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学外実習について前回は 5 日間という期間でしたが、短い期間だと良い所しかわからず現場とのギャップが生まれると思うので、実習期間を検討するのも一つかと思います。(仙波委員)
- ・卒業生から現場の話を頂く事で現場を知ることも可能です。学外実習やインターンについては企業側の了承も必要なので、実習の実施については検討です。(遠藤委員)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・1年次後期からのコース分け、B×art コンテストやビューティーショーといった学校行事等、学校の魅力を打ち出していく。

② 今後の改善方策

- ・引き続き SNS や WEB での発信を継続し、学校のリアルな情報を発信していく。

③ 特記事項

- ・遠方でも参加できるオンラインオープンキャンパスや学校説明会の実施を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学生寮ではコミュニケーションを大切に、ウェルカムパーティ、ハロウィンパーティなどのイベントを実施。ZOOM でビンゴ大会や、学生の協力でメイクや仮装、SNS も利用して住まいでも孤立しないように工夫している。今年は、楽天の試合を 20 名ぐらいで観戦。観光体験として、BBQ や芋煮会も検討しており、寮での様子を発信できるようにしております。（宮下委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・今後も継続した法令遵守が求められる。

② 今後の改善方策

・会議や掲示物を通して、すべての教職員へ法令遵守に対する啓蒙を図る。
 ・個人情報保護法など、毎年繰り返し法令の正しい知識を教職員に伝えていく。

③ 特記事項

・全体会議、教務会議にて、定期的にコンプライアンス研修を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・関連企業と連携は図られているが、自治体との連携やボランティア活動を推進する。

② 今後の改善方策

・関係企業や自治体との連携を模索し、新たな教育活動の場を設ける。

③ 特記事項

・コロナウイルスの感染予防もしながら 2023 年度は産学連携を行っていく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・コロナ禍も明けて対応が少しずつ変わってきた。こつこつ頑張っている生徒と何から手をつけていいのかと悩む生徒もいる。学校としては社会に出ていくための準備はしっかりさせなければならない。(蒲生さん)
- ・教員が発した言葉、対応した事が生徒本人の学びになり社会に出ていく。
教員も変われる人と変われない人がいるが、失敗を繰り返しながら頑張ろうとしている。
生徒も同じなので、生徒が間違えた際は間違っているという事を納得できるように伝える対応力が重要で、社会に出たときに苦労しないようにしていきたい。
生徒にとって学びが多くなるように、今後も授業や行事を大事にしていきたい。(蒲生さん)

【学校関係者評価委員会コメント】

- ・教員が変わってきているのではないかと感じます。昔も今も生徒の根本はあまり変わっていないと思う。
教員が生徒と同じような経験しかしてきていない場合もあるので、学校が楽しいと思えるように、役職者としては教職員を育てるのが先だと思います。教員たちを育てる上で気をつけている事は、昔は察しなさい、わかるでしょというのが当たり前だったのが、今は言葉にしないとなかなか伝わらないという事です。
小中学生の授業も変わっている中で育っている教職員が多くなり、教員としての意識が変わってきているので、教員側が生徒の変化を感知するのが難しくなっている。
まずは職員室内でも話しかけやすいような環境にし、職員室内でも生徒に見られているという事を教員が自覚しないと生徒を見る力は養えない。簡潔に会話をしないと理解できない事もあるため、短く明確に伝えるようにしています。(村松委員)
- ・学生寮では職員からの声がけ、挨拶を大事にしています。何度も言い続ける事が大切。
変化については食事の面での様子を見る、入退館システムでいつもの行動との変化などで学校に行けていない学生には声がけをしている。孤立している人は、対面が苦手な方が多い。寮長寮母さんからも声をかけて会話の中で現状を把握し変化をつかみ、ケアをしています。(宮下委員)